



11 / 19



11:00~15:15

和と白干潟・海の広場 (福岡市東区和白4丁目)



《参加無料》小雨決行,雨天は集会所(和白3・4区),荒天中止



ツルナ咲く和と白干潟

♡ 干潟で遊ぼう!



第29回

♡ ラムサール条約登録をめざして!

和と白干潟まつり

★おいしい食べものの販売もあるよ〜! 一日中楽しめます! くわしくは2pを見てね!!

第29回 和白干潟まつり

11月19日(日)

11:00 ~ 15:15



干潟で遊ぼう

参加無料

会場 和白干潟・海の広場

(東区和白4丁目海岸) 駐車場なし

小雨決行、雨天は集会所(和白3・4区)荒天中止

主催/ 和白干潟まつり 実行委員会

[構成団体] 和白干潟を守る会、

グリーンコープ生協ふくおか 福岡東支部

協賛団体/ 日本野鳥の会福岡支部、博多湾会議

(株)ファーストソリューション

後援/ 西日本新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、

読売新聞西部本社、九州朝日放送、RKB毎日放送、

テレビ西日本、TVQ九州放送、FBS福岡放送、

NHK福岡放送局

模擬店・バザーの出店希望の方へ

模擬店・バザーの出店希望は 10/25 までに

実行委員会にお申し込みください。

干潟まつり実行委員会で決定します。

(営利目的の事業者の出店はお断りしています)

お問い合わせ
お申込み

今村・092-942-5282

カンパなどのお願い

第29回和白干潟まつりを成功させるために、

皆様のご協力をお願いいたします!!

1. カンパとして1,000円以上をお願いします。
(カンパは干潟まつりの運営資金や保険料などにあてます)
2. 他の会の機関誌にも干潟まつりの案内を掲載したり、チラシの配布にもご協力下さい!

カンパの送り先: 和白干潟を守る会
郵便振替 01720-4-23860

ラムサール条約登録をめざして

今年もラムサール宣言を出します!
福岡市長のメッセージが届きます!

プログラム

開会式	11:00 ~ 11:20
バードウォッチング	11:20 ~ 12:00
自然あそび	12:00 ~ 12:40
植物観察	12:40 ~ 13:20
干潟の生物観察	13:20 ~ 14:00
コンサート・マジック	12:00 ~ 14:15
ミニシアターほか	
一言アピール	14:15 ~ 14:30
手をつないで	14:30 ~ 14:40
干潟の掃除	14:40 ~ 15:00
写真展・パネル展	11:20 ~ 15:00
模擬店・バザー	11:30 ~ 15:00
閉会式・ラムサール宣言	15:00 ~ 15:15
(後片付け・反省会	15:15 ~ 16:00)

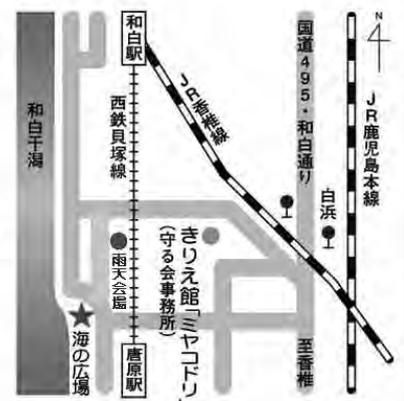


会場整備ボランティア
募集!!

11/18(土) 15時 ~ 会場整備
当日11/19(日) 9時 ~ テント設営
応援お願いしま〜す

交通

- 西鉄貝塚線
唐原駅より
徒歩5分
- 西鉄・JR和白駅
より徒歩10分
- 西鉄バス
白浜バス停より
徒歩5分



参加される皆さん、長靴・敷物は持ってきてね!

和白干潟の観察会のようす

(今村 恵美子)

7月23日(日)「夏休み!和白干潟の生きものやハマボウを見る会」

和白干潟保全のつどい主催で8回目。最高気温35度の午後、66名が参加。守る会山本代表が、14年前に会員が1本のハマボウの木を発見してから「ハマボウを見る会」に発展してきた歴史を語りました。九州環境管理協会の藤井講師の指導で、カニや貝などの豊富な和白干潟の生きもの観察をしました。夏休みの自由研究にしよう親子連れがたくさん参加しました。子どもたちも怖がらずにカニを捕まえ、あちこちで歓声が上がりました。牧ノ鼻のハマボウが今年はもう計測できないほどの大きさになって無数の黄色い花を咲かせていました。牧ノ鼻の照葉樹林の話をして、まとめを行いました。子どもたちからは「カニを捕まえるのが楽しかった」、大人からも「知らないことばかりで勉強になった」と感想がありました。(今村)



9月15日(金)美和台小学校5年生137名と先生5名の観察会



雨の予報が出ていたので子どもたちは雨具の用意をして、40分程かかる美和台小学校から歩いてきました。バードウォッチングでは、ちょうどミサゴが2本の杭にそれぞれ1羽ずつ止まっているのを見ることが出来ました。アシ原に向かうと干潟一面に広がったアオサで足元がぬかるみました。ガイドがアシハラガニを見せると「オー」と感激していました。沖でアサリを探すと思ったよりもアサリがいて、割合早く浄化実験用のペットボトルはアサリでいっぱいになりました。アサリの見つけ方を教えると、「手で触るのはちょっと」と尻込みをする子がいました。ハクセンシオマネキは繁殖期を過ぎていて動きに迫力がなかったです。最後にまとめをして、とったカニや海そうを見てもらいました。貝の浄化実験できれいになった海水のペットボトルを見せると、一瞬で子どもたちの目がペットボトルに釘付けになりました。「干潟を掘った時に下の土が黒いのはなぜですか?」などの質問が出ました。時間が短く、十分観察ができない部分もありましたが、子どもたちにとっては楽しい経験だったようです。(有江)

9月19日(火)筑陽学園中学校3年生64名と先生5名の校外理科学習

野鳥観察では珍しくトウネンが17羽も近くにきていて、肉眼で動きを観察してから望遠鏡を覗いてもらいました。沖の杭にはミサゴが止まり、ボラを食べる姿が観られました。昼食後12時から生き物観察を開始。まだ水が多くコメツキガニもアサリも思うようには取れませんでした。取れたアサリは浄化実験の容器に入れてもらい、その後9つの班に分かれて調査を開始。守る会のガイド5人も調査項目ごとに指導者として生徒と共に移動しました。湿地も岩場も生き物が多く、2匹の大きなモクズガニも捕まえました。アオサはまだ臭くなく、調査はスムーズでした。植物観察班は浜辺の塩生植物を観察しました。浄化実験は見事に成功し、海の生き物たちの動きぶりを紹介できました。時間の流れの中で、目の前の海水が引いて干潟が現れる自然現象を肌で感じ、アオサのある干潟を歩き回ったり、砂を掘ったりして楽しく校外理科学習ができたようでした。(今村)



9月8日(金)古賀市環境市民会議20名の和白干潟見学と交流



古賀市環境市民会議は古賀市で活動している環境保護団体で、森林・松林・河川・ビオトープ・生活環境などの環境保護団体や企業、行政などで構成され、古賀市の環境保全を目的として活動している団体です。20名が午後2時過ぎ、きりえ館に到着。守る会ガイド5名が対応しました。山本代表がプロジェクターを使って和白干潟の自然や干潟の役割、守る会の活動などを紹介してから、和白干潟に行きました。日頃、環境保護活動を行っておられる方たちだけあって「アオサの利用方法はないのか」「人工島が出来てどんな影響があったのか」などの多くの質問がありました。(山之内)

和白干潟を守る会へのご支援ありがとうございます! 大切にに使わせて頂きます!

8/18「和白東レインボークラブ連合会」様よりご寄附をいただきました。

ご支援に感謝申し上げます!

フクド (ハマヨモギ) キク科。落葉低木。

和白干潟通信123号でフクドを紹介しましたが、その中で間違いがありましたので、再度書きます。フクドは福岡県の絶滅危惧 類、環境省の準絶滅危惧になっています。西日本の海にそそぐ河口に群生する2年草。葉はヨモギの葉を厚くした感じ。秋に多数の頭花がつくそうですので、楽しみに見ていましたら、9月に中の茎が伸びてきて頭に黄色のつぼみが付き、開きだしました。和白干潟の唐原川河口左岸奥の「香住川」(名前の無い川でしたので名付けました)の沿岸にフクドの群落地があります。和白干潟でも他の場所では見たことがありません。



花が咲きだしたフクド

アカエイ トビエイ目アカエイ科。全長1 m。



アカエイ

日本を含む東アジアの沿岸域に広く分布。食用ですが、尾に毒の棘があるので注意が必要です。背は赤褐色、腹は白色で周辺は橙黄色の縁取りがあります。体は上から押しつぶされたように平たく、座布団のような形をしています。浅い海の砂泥底に生息し、泳ぐ時は左右の胸びれを波打たせ、海底近くを羽ばたくように泳ぎます。肉食性で貝やエビ・カニ・魚類などを食べます。アサリも食べるので、食害が問題になります。サメの仲間が海底にすむようになって、だんだん体が平らになったのが、エイの仲間だとも言われています。私は元気に泳ぐアカエイの子どもを、和白川河口で見ました。なかなか可愛い姿をしています。

ミヤコドリ チドリ目ミヤコドリ科。全長4.5 cm。福岡県絶滅危惧 類。

和白干潟のシンボル鳥。日本では冬鳥として渡来していますが、今夏は和白干潟で4羽が越冬した様です。雁ノ巣海岸や和白海岸で見られました。赤いくちばしが長くて太く、アサリやカキをこじ開けて食べています。古くは「筑前國産物絵図帳」に香椎潟付近のミヤコドリの絵が描かれており、江戸時代にもミヤコドリが和白干潟付近に飛来していたことがわかります(香椎潟は和白干潟の隣です)。飛び立つ時にピリーツと大きな声で鳴きます。赤・白・黒のシンプルな色合いの美しい鳥です。



ミヤコドリ

秋の和白干潟のしぜん情報

- アシ原：**アシに穂が付きだんだん膨れてきます。センニンソウの白い花が木々を覆っています。ハマサジやウラギクの花が咲き、ハママツナやイソホウキギなどが紅葉。樹林帯のハゼやナンキンハゼも紅葉。センダン、シャリンバイなどの実がみのります。秋は実りの季節です。
- 干潟：**今夏も猛暑でした。9月に入りアオサが多くなってきました。干潟全体がアオサで覆われつつあります。アオサが増えないように祈るような気持ちです。ウミニナやホソウミニナの稚貝や、コメツキガニのクモの子のような小さな稚ガニがたくさん見られます。
- 水鳥：**10月には淡水ガモが飛来。クロツラヘラサギも訪れます。11月には越冬するシギ類、カイツブリ類、カモメ類も渡ってきます。12月にはツクシガモやズグロカモメが飛来して和白干潟の冬鳥がそろいます。冬鳥たちの訪れは楽しみです。

「ラムサール条約登録を求める請願」は継続審査に

和白干潟を守る会が3月に提出した請願「博多湾・和白干潟のラムサール条約登録について」の審査が、8月21日福岡市議会第5委員会でありました。冒頭で山本代表が請願の趣旨について熱意のこもった意見陳述を行いました。筆頭紹介議員の荒木議員が「ラムサール条約は人と自然の共存を図るもので開発行為を一切禁じているものではない、大都市でありながら貴重な自然を残すことは市の発展に更なる価値を付与する」と説明。質疑の中で「野鳥による農作物被害がある」との説明に対し、野鳥とは水鳥ではなくカラスやヒヨドリで、実態調査もしていない、被害の生データも無く、複数の意見ではないことなどが明らかになりました。2013年の環境省の鳥獣保護区公聴会にむけての意見募集でも、特別保護区にしてほしいとの意見ばかりで反対する意見は無かったとのことでした。環境局長は「市街地に隣接するため現段階で登録されると交通渋滞など将来への不安を持っている住民もいるので、条件を満たしていない。和白干潟が貴重な湿地であることは認識しているが、保全の意識を高め、合意形成が進めば次代につなげたいと思う」と答えました。議員からは市民の理解が必要で市が啓発を進めるよう意見が出されました。



委員会は、採択3、不採択1、継続3と意見が分かれ、結局「継続審査」となりました。これまで「市民の理解が進んでいない」と説明してきた福岡市は、実態調査や聞き取り調査も全くしていなかったことがわかりました。いまだ登録されない和白干潟の貴重な自然を守るために、福岡市は多くの市民の意見を聞こうとしなかった、保全への努力も理解を進める取組みも何もしていなかった、ということが明らかになりました。福岡市の開発優先政策を進めてきた人たちの思惑が、あるべき環境都市への道を妨げているとしか思えません。(今村)

「四季の和白干潟の自然 (雁ノ巣海岸)」のリーフレットができました!



2016年に1年間かけて「四季の和白干潟の自然さがし(雁ノ巣海岸)」を実施しました。その記録をまとめて編集し、7月に発行しました。雁ノ巣海岸は砂嘴が特徴で、海の広場付近とはまた異なった生態系が見られます。人工島に近いため特定外来植物も入ってきています。

このリーフレットは会員の方にはお送りします。

8月8日(火)日本自然保護協会「うなぎ目線で川・海しらべ」

今回は6名で、和白干潟にそそぐ3本の川と河口干潟の調査をしました。唐原川には立花山のふもと下原から下って行くと、下原橋下の可動堰、国道495号線近くの可動堰があり、川全体は水がよどんでいたり、カワニナがいたり、水のない箇所や大きな魚が泳ぐところ等あり、河口からは干潟が広がっていました。和白川も河口にはハクセンシオマネキが見られる洲があり、3面側溝や暗渠になって高美台の高美池まで続いていました。五丁川は水源を求めて探し回りました。以前は畑中の用水路でしたが、開発が進み道路の傍ら流れ、海岸に近い河口の橋の下に大きな可動堰がありました。どの川にも魚道は無く、うなぎ目線でみると厳しい環境のようでした。(田中)



気が付いたらあなたも電話してください!

** お 願 い **

海辺のゴミやアオサをとってほしい時・自分でゴミを拾った時
092-282-7146 (港湾空港局・維持課)

干潟でのゴルフやラジコンの練習はやめましょう!
とても危険です。

沖のアオサをとってほしい時
092-282-7153 (港湾空港局・環境対策課)

干潟や堤防で火気を使うことはやめましょう!
(花火、バーベキュー、ゴミを燃やすこと)
火災の危険があります。



犬のフンの始末は飼い主がしましょう!

弱った野鳥を見つけた時 092-513-5611 (福岡県筑紫保健福祉環境事務所 地域環境課)
092-643-3367 (福岡県環境部 自然環境課 野生生物係)



活動日誌

2017年6月

- 6/3 (土) 第5回唐原川お掃除し隊(山・川・海の流域会議主催)
- 6/4 (日) 第20期和白干潟の自然観察ガイド講習会
- 6/8 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 6/10 (土) 和白干潟通信123号編集会議
- 6/11 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会)/イオン黄色いレシートキャンペーン
- 6/13 (火) 四季の和白干潟の自然 リーフレット編集会議
- 6/19 (月) 和白小学校4年生の和白干潟観察会
- 6/24 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 6/25 (日) 和白干潟通信123号編集会議

2017年7月

- 7/8 (土) 山・川・海の流域会議定例会参加
- 7/11 (火) イオン黄色いレシートキャンペーン
- 7/13 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 7/18 (火) 和白干潟通信123号発送会
- 7/22 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 7/23 (日) 「夏休み!和白干潟の生きものやハマボウを見る会」(保全のつどい)
- 7/25 (火) リサイクル講習会「ペットボトルで浄化実験用具を作る」

2017年8月

- 8/5 (土) 「唐原川ふれあい環境教室」(九産大野生動植物研究会)参加
- 8/6 (日) 2017年秋期シギ・チドリ調査1回目(今津)
- 8/8 (火) 日本自然保護協会「うなぎ目線で川・海しらべ」
- 8/10 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 8/11 (金) イオン黄色いレシートキャンペーン
- 8/13 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会)
- 8/21 (月) 「博多湾・和白干潟のラムサール条約登録について」の請願審査
- 8/22 (火) 2017年秋期シギ・チドリ調査1回目(博多湾東部)
- 8/26 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 8/29 (火) 第29回和白干潟まつり第1回実行委員会



干潟のつばやき「自然ってたくましいね!」

ハマボウはアオイ科の落葉低木で、関東以西の西日本に分布し、内湾海岸に自生する塩生植物。和白干潟では牧ノ鼻海岸に群落があり、夏に黄色の大きな花を咲かせます。綺麗な花を咲かせるので「たくさん増えていけば良いのに」と思いますが、中々他の場所に広がっては行かず、5年ほど前には唐原川河口に1本幼木があるだけでした。このハマボウはたくさん花を咲かせ種も付けます。和白干潟では他のところで見かけないので、種が潮に乗って移動するのは難しいのかと思っていました。しかし、2年ほど前に海の広場とアシ原で1メートルほどの幼木が発見され、昨年はアシ原入口、そして今年は和白4丁目のアシ原でと次々に見つかりました。1メートルほどの3年位の幼木ですが、あのたくさんの種の中から漂着した一粒の種が根付いたんですね。8年ほど前には牧ノ鼻の親木の近くにハマボウを植栽しましたが、今、牧ノ鼻はハマボウの木でいっぱいです。人が何もしなくても自然はたくましく生命を受け継いで行くんですね。(山之内)



ハマボウ

リサイクル講習会「ペットボトルで貝の浄化実験用具を作る」

7月25日(火)、観察会で使う貝の浄化実験用具の作り方を講師の田中さんから教えていただきました。ペットボトルに赤色テープを貼ったものはアサリなど二枚貝を、黄色はウミナスを、白色は海水のみを入れる用具です。はさみでペットボトルの上部を切り取り、幅広のビニールテープを貼ります。それから初めて使う電気カッターでひもを差し込む穴を2か所を開け、包装用テープを通し取っ手を作ります。次にこれも初めて使うハンダ鋸で穴をあけ、ビスを取っ手のテープの上から付けるのがなかなか難しかったです。みんなで16個完成しました。今後は皆で一緒に作りましょう。田中さんは、常日頃必要なこれらの浄化実験用具を作り揃えておられ、エコ生活も学ばせてもらいました。(河上)



9月23日(土) ビーチクリーンアップ・漂着ごみ調査



国際ビーチクリーンアップは世界的規模で一斉にゴミ調査をする催しです。9月23日のクリーン作戦では、38名が参加し102袋のゴミを回収しました。海岸の人工ゴミを1時間拾い集め、その後人工ゴミを分類調査する班とアオサを回収する班に分かれました。人工ゴミは37種類に分類し集計しました。特に多かったのは食品の包装や袋、ペットボトル、レジ袋でした。調査には九産大宗像ゼミ、西日本シティ銀行、ガールスカウトの方々などの協力がありました。(山之内)

和白干潟の水質・砂質調査結果



表は2017年4月から2017年9月までの水質調査と砂質調査結果です。水質調査についてはリン、窒素、CODとも最近では良い状態で透視度も良かったです。砂質調査については、表層酸化層の厚さが浜辺から10メートル地点の方が薄いですが、最近では良い方です。

水質調査結果 (2017年4月～2017年9月)

測定項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月
リン酸イオン (PO ₄)	mg/l	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02
化学的酸素要求量 (COD)	mg/l	5	4	4	4	4	5
亜硝酸 (NO ₂)	mg/l	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005
透視度	cm	42	100	55	100	100	100

砂質調査結果 (2017年4月～2017年9月)

測定項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月
10m地点 表層酸化層の厚さ	mm	8	5	5	4	3	3
還元層の黒色度	-	13	14	13	13	13	13
150m地点 表層酸化層の厚さ	mm	28	17	14	9	5	6
還元層の黒色度	-	13	13	13	13	13	12

◆唐原川・和白川の水質調査結果

唐原川・和白川については2015年5月からリン酸イオン、化学的酸素要求量、亜硝酸について水質調査を行っています。結果については以下の表に示されるように、いずれの値についても和白干潟に比べて汚れていることがわかります。

唐原川 水質調査結果 (2017年4月～2017年9月)

測定項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月
リン酸イオン (PO ₄)	mg/l	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05
化学的酸素要求量 (COD)	mg/l	5	6	6	6	13	7
亜硝酸 (NO ₂)	mg/l	0.010	0.070	0.005	0.005	0.005	0.005

和白川 水質調査結果 (2017年4月～2017年9月)

測定項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月
リン酸イオン (PO ₄)	mg/l	0.02	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05
化学的酸素要求量 (COD)	mg/l	5	6	5	5	8	6
亜硝酸 (NO ₂)	mg/l	0.005	0.050	0.005	0.005	0.005	0.005

守る会問い合わせ窓口 ★ホームページ: <http://wajirohigata.sakura.ne.jp/>

- ◎入会／観察会(申込等) 山之内 芳晴 Tel. 090-8412-2663
- ◎クリーン作戦 田辺 スミ子 Tel. 090-1346-0460
- ◎広報／調査／定例会議 山本 廣子 Tel/Fax. 092-606-0012
- ◎干潟まつり 今村 恵美子 Tel/Fax. 092-942-5282



キンエノコロ

お知らせコーナー

★ バードウォッチング in 和白干潟2017★



- と き：12月9日(土) 13:00~14:30
- 集 合：和白干潟(海の広場) 東区和白4丁目海岸
- 申し込み：不要
- 主催：和白干潟保全のつどい
- 問い合わせ：TEL 090-8412-2663(山之内)

定例スケジュール



●定例会議(10/28, 11/25, 12/16)

毎月第4土曜日10時半~13時 守る会事務所にて開催。
※12月は第3土曜日。

以下は参加自由です!仲間が待ってます!

●クリーン作戦と自然観察(10/28, 11/25, 12/16)

毎月第4土曜日15時~17時 和白干潟・海の広場集合
※長靴があると便利。駐車場なし。12月は第3土曜日。

●和白海岸探鳥会(11/12, 12/10, 1/14)

毎月第2日曜日9時~12時 JR和白駅前和白公園集合
主催：日本野鳥の会福岡支部 参加費：一般は300円、中学生以下は無料。



★会員募集中!
年会費 個人 2,000円
団体 5,000円
★カンパの協力お願い
郵便振替 01720-4-23860
和白干潟を守る会

★ボランティアへのお誘い★
和白干潟を守る会のボランティア活動に参加して、新たな自分を見つけませんか?あなたの経験や知識や技術が、きっと活かされますよ!

和白干潟の鳥たち(その80)

オナガガモ(カモ目 カモ科/Pintail) 尾長鴨 [全長: 53cm、75cm]



写真撮影：三宅 僚

オナガガモは和白干潟には冬鳥として渡来する淡水ガモの仲間です。秋に飛来して越冬する淡水ガモの中では、ヒドリガモ・マガモと共に普通に見られるカモです。淡水ガモの中では特に雄は大きくて、首も長く姿勢がいい感じがします。水面に浮かんだ時には長い尾羽が斜めに突き出していて、目立ちます。プリッ、プリッという小さな声で鳴くそうですが、ほとんど聞いたことがありません。逆立ちして首を伸ばし、水中や水底の餌を取っています。植物が主食ですが、動物も食べます。貝類、虫類、カエルなども食べるそうです。(山本 廣子)

【編集】 山之内 芳晴・田辺 スミ子・今村 恵美子・高田 将文・山本 廣子
《カット》くすだ ひろこ ★次号は2018年1月に発行予定★

【編集後記】 和白干潟まつりも29回目を迎えます。長く続けてきたものだと思います。まつりには1年に一度だけ会える人もいて、懐かしいですね。自然を大切にすると、地域にも根付いてきたように思います。たくさんのグループや人たちが力を合わせてやってきました。これからも長く続けたいですね。(山本)

